



目指せ！日本一！ 自慢のおいしいお米で！

向山 博（むかいやま ひろし）
米-1グランプリinらんこし実行委員会 実行委員長



農村漁村における地域の活性化や、個性的で魅力ある地域づくりの優れた活動を紹介するシリーズ。

今回は「わが村は美しくー北海道」運動第6回コンクールで優秀賞を受賞した「米-1グランプリinらんこし実行委員会」実行委員長の向山博さんにお話を伺いました。

《発足の始まり》

蘭越町は雄大なニセコ連峰の山岳に囲まれた盆地で、美しい尻別川が町の中央を流れ自然豊かな町です。その流域に広がる土地はお米作りに最適な環境で、ここで作られる「蘭越米」は良質美味で道内はもちろん道外でも好評です。

当時、本州のお米に比べて北海道米の評判があまり高くなかったので、何とか北海道米を全国に広めたいと農家の仲間5名で、道外のお米のコンテストに出品することにしました。その大会で入賞することができ、北海道米のおいしさを再認識できました。それをきっかけに、北海道でもコンテストを開催したら、北海道の生産者たちの競争意識が高まり、より一層おいしいお米作りができるのではないかと考えたのが始まりでした。

《大会に向けて》

大会前には、同じ方法でコンテストを行っている山形県の庄内町へ訪問し、運営方法のノウハウを学び、2011年に第1回目の大会を開催しました。現在、実行委員は12名で、町内の米農家さんたちで構成されています。田植えや稲刈りの忙しい時期をずらしてからの活動になり、毎年6月に総会、そして11月の決勝大会

に向けて毎月委員会を開き、準備をします。

大会には毎年、全国から300前後の出品数があります。審査方法は、食べ比べによる審査で、予選は全国の調理師専門学校等の教師や生徒、お米を取り扱う専門店の方々による審査で上位30品が決勝に進出します。

決勝はトーナメント方式で10名の審査員で順位を決めています。お米の研ぎ方や水加減など、同じ条件下に20台の炊飯器を使いお米を炊きます。これらの準備は、分割みのスケジュールの中で行うので、とても緊張します。また、この大会は町民の協力なしでは実施できませんので、多くの町民の協力を得ています。そのほか、大会中にクイズや抽選会などのイベントも開催します。

《グランプリを目指して》

今年は11月20日に11回目の決勝大会を計画しています。現在、審査員の募集を始め、着々と準備を進めていますが、今年は入場制限をしないで開催できることを願い、町民一丸となってこの大会を成功させたいと思っています。

この大会を通じて参加者が、おいしさ日本一を競い合い、それぞれの良食味米産地とブランド力をPRできればと願っています。

ぜひ今年は北海道米がグランプリを！



20台の炊飯器でお米を炊く様子

厳正な審査の様子

* 当協会ホームページ、開発調査総合研究所・調査研究報告書から「わが村は美しくー北海道」第1～9回受賞団体の活動概要をまとめた冊子をご覧ください。